

## 健全な社会を次世代へ

八王子市長 黒須隆一

平成19年3月、「自治体の破綻」という大変衝撃的なニュースが飛び込んできました。平成4年度の赤池町（現福智町）以来15年ぶりとなる北海道夕張市の財政再建団体の認定は、本市が自治体の行政運営ランキング全国第1位の評価を受けたとは言え、地方自治を取り巻く環境の厳しさを考えた時、今後の教訓として改めて心に刻んでおく必要があります。

私が市長に就任した当時、財政状況は非常に逼迫したものでした。以来8年間、自らの責任と判断においていち早く財政の立て直しに向けたプランを立て、時代にふさわしい自治体運営の実現に向けて全力で取り組んで参りました。財政再建のために策定した第五次行財政改革では、「市民との協働」「地域経営」という新たな視点を改革の柱の一つとして掲げ、本市が誇る市民力と行政が手を携え、互いに力を発揮し合うことでより良い地域社会を形成するための“しくみづくり”を進めてきたところです。小田野中央公園での市民による手づくり公園の取組をはじめ、自主防災組織の結成率向上や緑地保全のために発行した「八王子みどり市民債」などは、まさに市民力の気運の高まりによる大きな成果と言えるでしょう。また、職員に対しては「経営感覚と市民の視点」を訴え続け、徹底した無駄の排除と公債費の抑制に努めながら財政状況の安定化を図ってきたところであります。

しかしながら、少子高齢社会の進展による労働力人口の減少や景気の先行きが不透明な今日においては、どこの自治体も財政健全化に向けた共通の課題をかかえており、本市もその例外ということでは決してありません。地方公共団体財政健全化法や地方分権改革推進法の制定は、地方の行政運営に、より一層の自律化を求めるものであります。

行財政改革プランは本年3月で一応の区切りがつき、これまでの取組により一定の道筋はつけられたと自負しているところではあります。しかし、市民の皆様が安心して暮らすことのできる健全な社会を「市民の笑顔」というバトンによって次世代へ引継ぐには、これからも不断の改革を進めていくことが肝要です。本年5月には、今、私たちが為すべき取組をまとめた第六次の『行財政改革推進プログラム』を策定しました。行財政改革にゴールはありません。これまでの改革に対する私の信念に誤りは無かったとその意を強くしつつ、これからも積極的な改革に取り組んでいく所存です。

平成20年9月

## もくじ

<b>1 第五次行財政改革「行財政改革プラン」とは</b> .....	1
(1) 策定の経緯	
(2) 第五次改革の特徴	
(3) 第六次改革へ踏襲する2つの視点	
<b>2 3年間の総括</b> .....	3
(1) 達成率	
(2) 決算における金額効果	
(3) 職員数で表せる効果	
(4) 総人件費の抑制	
(5) 公債費の抑制	
<b>3 主な取組の成果</b> .....	7
(1) 地域（自治体）経営改革	
(2) 行政（市役所）経営改革	
人材・組織マネジメント	
施設マネジメント	
財政マネジメント	
情報マネジメント	
<b>4 取組の達成状況（一覧）</b> .....	19
(1) 施策を横断した取組	
人材・組織マネジメント	
施設マネジメント	
財政マネジメント	
情報マネジメント	
(2) 施策別取組	
第1編 新しい時代にふさわしい創意にみちた協働のまち	
第2編 一人ひとりが大切にされ共助で築くふれあいのまち	
第3編 だれもがいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち	
第4編 安全で快適に暮らせる心やすらぐまち	
第5編 魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち	
第6編 水とみどりを慈しむ地球環境にやさしいまち	